

平成29年度 南丹市立美山小学校 学校経営総括

学校教育目標	めざす児童像	めざす学校像		
「ふるさとを愛し 夢や希望に向かって 自らを高める 美山っ子の育成」	み 自ら考え、豊かに表現する子 や やさしく、思いやりのある子 ま まっすぐ伸びるたくましい子	児童が生き生きと活動し成長することを 保護者・地域・教職員が手を携えて取り組む学校		
学校経営の重点(短期経営目標)	成果	評価	課題	改善策等
(1)自ら意欲をもって学び、仲間と共に学ぶ楽しさ を実感する児童が80%を超えるようにする。	95%以上の児童が、学校は楽しく目標・目 当てを持ってがんばっていると自覚してい る。	B	家庭学習時間や高学年の自主学習 については、さらに高めることことが できる。	個に応じた課題の設定や励ましによって、 児童が成就感を味わい自信が持てる指導 を展開する。
(2)「美山学」を初めとする地域と連携した学習に 教職員が積極的に参画し、その学習活動を通し て、ふるさと美山を大切に思う児童が80%を超 えるようにする。	「美山学」を中心に地域と連携した学習に より、美山を誇りに思う児童が増加し、 90%を超えるようになった。	B	保護者をはじめ、地域の方が学ば せたい内容を把握し、次年度の「美 山学」につなげていく。	熟議での意見やアンケート等によって地域 の方の願いを踏まえ教育課程を改善す る。
(3)日常の活動や人権学習を通して児童の人権 意識を高め、いじめは絶対に許さないと考える児 童が90%を超えるようにする。	いじめを許さず、困った友達に手をさしの べるという児童が、95%を越えている。	B	自分の良さに気づけない児童が 20%程度いることから、友達の良さを 認め大切にする心情をさらに高め る。	一人一人がかげがえのない大切な存在で あるということを次年度も伝え続ける。
(4)体育・スポーツが好きで、自らをさらに高めたい と思う児童が80%を超えるようにする。	意欲の高い児童が陸上大会や駅伝で成 果をあげ、全校児童の自尊感情を高める ことにつながった。	C	運動好きの児童とそうでない児童の 二極化が見られ、全児童の運動機 会の拡充を図る。	朝や休み時間の外遊び・運動の推奨と、 体育の授業や体育的行事を通じて運動量 を確保していく。
(5)人事評価の自己目標達成に向けた取組や校 内研修により、教職員が自身の成長を実感するよ うにする。	全教職員で取組を進めた「美山学」の研 究に対し、京都丹波の教育推進表彰チ ーム賞を授与された。	B	各教員の自己目標と学校自己評価 目標の相関関係をさらに意識する。	各教員が自己目標の達成を通じて、学校 自己評価目標達成に寄与することを当初 から意識する。

学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもたちの様子から、互いを認め合ったり、集団の問題を解決したりする力が高まっている。</li> <li>○「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」に係る『美山学』に全教職員で取り組み、子どもたちが地域の良さを学び、学校と地域との連携が深まった。</li> <li>●同一集団のまま9年間を過ごすため、人間関係の固定化による問題に配慮が必要である。</li> <li>●体力向上への方策が必要である。</li> <li>●各種災害の想定範囲を拡大し、対応できるように備えることが求められる。</li> </ul>

第三者評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○『美山学』の取組を通じて、同一の目標を持って教師集団のまとまりが見られた。</li> <li>○駅伝や陸上大会に前向きに取り組み、成果が出た。</li> <li>●中学生になると親のハードルが下がるため、親としての在り方に触れ、小学生段階から家庭での時間過ごし方やルール作りをする必要がある。</li> <li>●小学校での学びを中学校で生かすカリキュラムを作成して、系統性をもって指導する必要がある。</li> </ul>

本年度の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>○熟議や『美山学』の実践により、学校教育への理解と地域との連携が深まり、「地域とともにある学校」として来年度からのコミュニティ・スクールへの準備を進めることができた。</li> <li>○多くの子どもたちが、仲間とともに学校で学ぶことを喜びに感じる事ができた。</li> <li>○大部分の児童が、いじめを許さず仲間を大切にしなければならないという思いで学校生活を送り、そういった雰囲気を作り出している。</li> </ul>

次年度の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニティ・スクールとして、さらに地域と連携・協働した学校教育を推進していく。</li> <li>○『美山学』及び各教科教育の充実により、児童の表現意欲と表現力を向上させ、自己肯定感を高める。</li> <li>○運動機会の拡充により、体力向上を図る。</li> <li>○教師が元気に児童と関わる事ができるよう、働き方を改革を進める。</li> </ul>